

「メガネをかけたら」を読んで

二年四組 ぶく田 ゆう花

「ちょっとしりよくがわるくなっていますね。」

と目いしやさんに言われました。二年生になったばかりのことです。メガネをかけるのはいやだなあ、ちゃんと見えているのに。今はメガネをかけなくてもいいけど、いつかメガネをかけないといけなくなったらいやだな、と思いました。

そんなとき、本で「メガネをかけたらいよいよ本を見つけました。この本にあるみたいに、空をとべるメガネや、かわいくなるメガネがあったらわたしもかけるのに。本当にメガネをかけたら人が考えていることが分かると思います。」

メガネをかけてもだれにもわらわれない、メガネの国があったらいいな。メガネの国では、みんながメガネをかけていて、目かわるくない人もメガネをかけています。わたしが

かけたいののは、目がわるくならないメガネです。ほかには、べん強がスラスラできるメガネもあります。水えいが上手になるメガネもあります。

お母さんがかけているメガネは、りょうりがはやくできるメガネです。おとうさんがかけているメガネは、ゴルフが上手になるメガネです。おとうさんがかけているメガネは、サツカーが上手になるメガネです。

本で、メガネを買いに行くとき、女の子がいろいろなメガネをためされながら、てんいんさんが言っていることをせんせんしんじていなかっただのが、おもしろかったです。たぶんメガネをかけるのが、すごくいやだったんだと思います。

さいごに女の子がメガネをかけて学校へ行ったとき、先生たちもみんなメガネをかけているのがおさしいと思いました。

メガネをかけるのも、わるいことばかりじゃないなと思いました。